

安全を確保するための富士山噴火総合対策（溶岩流・火砕流）の策定について

「富士山」について

- ・火山活動で形成された**美しい景観**
- ・2013年「世界文化遺産」に登録
- ・我が国の**象徴的な存在**として親しまれている

- ・国内外から数多くの観光客や登山客が訪れる
- ・豊かな自然環境を基盤とし、観光業や林業等、経済活動が発達。
- ・広大な山麓で**多くの人々が生活**。

一方

- ・**活火山**であること
- ・300年以上噴火しておらず「**いつ噴火してもおかしくない**」との指摘も
- ・溶岩流や降灰等、**様々な火山現象が想定**

対策の状況について

住民、登山客等の避難対策等を推進するため、**噴火によるハザードの整理**

H16年度策定の「**富士山ハザードマップ**」に基づき「**広域避難計画**」策定等、様々な対策を実施

- ① **最新の科学的知見** に基づいた、**新たな噴火口** の設定
- ② **溶岩流等の噴出規模等の見直し**

ハザードマップの改定を実施

今回の中間報告では「**小規模噴火の溶岩流**」と「**火砕流**」のシミュレーション結果を公表

- ① **溶岩流の市街地に到達するまでの時間が極めて短時間になることが判明**
- ② **溶岩流・火砕流の到達距離が長くなることが判明**

H30年度開始、R元年度「中間報告」、R2年度末「最終報告」

- ・富士山は「**いつ噴火してもおかしくない**」と言われております
- ・このため、防災、減災を着実なものとするには、緊急時はもちろんのこと、平素からの備えが重要です

山梨県では、様々な機関と連携し、住民、登山客、観光客の安全を確保するよう、「避難」を防災対策の柱として、避難時間の確保、避難時間の短縮等の実現に向け、「**安全を確保するための富士山噴火総合対策（溶岩流・火砕流）**」を策定し、様々な富士山火山防災対策を**強力に推進いたします**。

安全を確保するための富士山噴火総合対策（溶岩流・火砕流）の概要について

- ・ 「平時」と「噴火の直前・噴火後」に分け、それぞれソフト対策、ハード対策を策定
- ・ 各機関との連携など推進体制を明確化

取り組む事項（溶岩流）

平時に噴火に備える事前対策

ソフト対策

- ・ 富士山噴火予知対策
- ・ 火山研究人材の確保、育成
- ・ 火山防災対策室の設置
- ・ 広域避難計画の改正を踏まえた、避難時間を短縮するための対策の企画立案実践 等

ハード対策

- ・ 火山防災対策拠点の在り方検討
- ・ 砂防堰堤等の事前対策
- ・ 避難時間の短縮のための避難経路確保のための検討 等

噴火が見込まれる直前、噴火後に実施する緊急対策

ソフト対策

- ・ 現地対策本部による緊急対策の実施
- ・ 避難時間を短縮するための対策（避難オペレーション）
- ・ 避難経路確保のための調整 等

ハード対策

- ・ 被害をできる限り軽減し、到達時間を少しでも遅らせるための減災対応 等

取り組む事項（火砕流）

平時に噴火に備える事前対策

ソフト対策

- ・ 富士山噴火予知対策
- ・ 火山研究人材の確保、育成
- ・ 火山防災対策室の設置
- ・ 火砕流に対応した迅速に避難するための対策の企画立案実践 等

ハード対策

- ・ 火山防災拠点の在り方検討
- ・ 火砕流堆積物を含む降灰後の土石流到達を遅らせる事前対策
- ・ 国に対する有効な緊急ハード対策の研究推進に向けた要請 等

噴火が見込まれる直前、噴火後に実施する緊急対策

ソフト対策

- ・ 現地対策本部による緊急対策の実施
- ・ 円滑な避難のための対策（避難オペレーション）
- ・ 避難経路確保のための調整 等

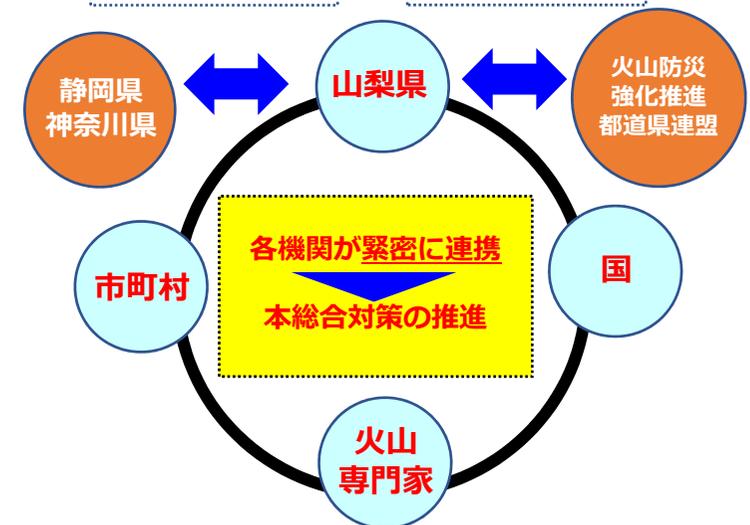
ハード対策

- ・ 被害をできる限り軽減し火砕流堆積物を含む降灰後の土石流到達を遅らせる減災対応 等

推進体制

連携する中、富士山火山防災対策を推進

共通する課題を共有解決に向けた連携



富士山噴火に対応するため、**事前・事後のソフト・ハード対策**に、「**それぞれの役割を明確化**」する中、**強力に連携して取り組む**